

# 令和5年度学校自己評価システムシート ( 県立鴻巣女子高等学校 )

目指す学校像	(1) 自立した女性の育成 (2) スペシャリストの育成
--------	------------------------------

重点目標	1 教員の学び合いとICTの活用により、生徒一人一人の学力を向上させる。 2 きめ細やかな指導を通して、生徒の主体的な進路実現を支援する。 3 規律ある高校生活を通して、生徒一人一人を大切に指導を推進する。 4 地域との連携事業や情報発信を通して、地域に貢献する学校づくりを推進する。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	(現状) 学習環境づくりの指針「授業5原則」「CLEAN THE TABLE」「朝読書」の徹底で校内は大変落ち着いており、計画的な学習活動が展開されている。また、ICT関係の整備や教員の研鑽により、ICT機器を活用した授業が積極的に行われている。 (課題) 生徒用タブレットの導入に伴い、授業におけるICTのさらなる活用が求められる。また、昨年度から実施された観点別評価への理解を深め、より適切に実施していく必要がある。	生徒一人一人に学科・教科ごとの具体的な目標を持たせ、学習意欲や学力を向上させられたか。	①年間学習計画を周知することで、生徒に明確な学習目標を生徒に持たせる。また、学期毎に学習を振り返らせ、まとめさせる。(学年・授業担当) ②学習の方法(予習・復習等)を生徒に具体的に指示することで、学力の底上げを図るとともに家庭学習時間の増加につなげる。(授業担当) ③ICT研修会を行い、授業でのICT活用を支援する。(複数回実施) ④各種研修会や授業公開週間等を活用し、観点別評価への理解を深めるとともに、教員間の学び合いを充実する。(複数回実施)	①学習に関する意識を高めた生徒の割合(前年度との比較) ②家庭学習時間の状況(前年度との比較) ③教員の意識の向上及び活用状況・頻度 ④研修会等の実施状況と成果		
2	(現状) 自立した社会人になれるよう、学年に応じた体系的な進路指導を行っており、卒業時の進路決定率も高い水準にある。 (課題) 進路に対する生徒の意識を高め、進路決定の充実を図る必要がある。学校としては、進学希望の増加、学部学科の内容の多様化に対応した指導の充実、オンライン見学・出願等への対応等の研究が必要である。また、保護者に対する情報発信・進路意識の涵養も課題である。	生徒一人一人の進路実現に向けて、適切な進路指導計画、キャリア教育を一層拡充させられたか。	①基礎力診断テスト等の結果を活用して、各生徒の実態を把握する。(進路部・学年・授業担当) ②進路の手引きを定期的に活用し、進路行事・キャリア教育の振り返りを行わせることで生徒の進路意識を高める。(学年・クラス) ③進路希望調査、二者面談、三者面談を実施により生徒の実態を把握し、個々に応じた指導を行うことで進路未決定者を減少させる。(進路部・担任) ④講演会や学年懇談会などで、保護者へ進路関係の情報を発信する。(進路部) ⑤進学・就職希望者向けの特別講座を実施する。(学年・進路部)	①テスト結果の分析と活用状況 ②③進路意識を高めた生徒の割合(前年度との比較) ④進路未決定者の割合(前年度との比較) ⑤保護者の進路行事参加状況及び情報発信状況 ⑥実施内容・回数など		
3	(現状) 「授業5原則」等の全校的な取組により生徒の基本的な生活習慣や自己管理能力は高い水準にある。学校行事に多くの生徒が主体的に参画しているが、より積極性を引き出したい。 (課題) 生徒の積極性を引き出すために、自己肯定感を高める指導が必要である。また、ネット社会のトラブル防止やマナー向上を図ることにより、他者を思いやる「気付き」力を養う取組を行う。	生徒の自己管理能力、コミュニケーション力と他者を思いやる「気付き」力を育成するとともに、各種の個別支援体制を改善する。	①生徒手帳の活用を計画的に指導し、生徒各自にスケジュール管理を徹底させるとともに、生徒の自己管理の状況を把握・指導する。(クラス担任) ②各種のマナーの向上や良好な人間関係の構築、SNSトラブル等に関する講演会、学習会を実施する。(生徒部、在り方生き方に係る教育推進委員会) ③生徒が整理・整頓できる力を養うため、日常的に荷物ダイエット等粘り強い指導を行う。(学年) ④不安や悩みを持つ生徒への教育相談やカウンセリング機能を整えて実施する。(体制の整備・強化)	①②③学校生活アンケート調査結果による成果と前年度比較 ④自己管理の意識を高めた生徒の割合(前年度との比較) ⑤各種講演会等の事後アンケート項目の肯定的回答(8割以上) ⑥個別支援に関するアンケート項目の肯定的回答(前年度との比較)		
4	(現状) コロナ禍が一段落したことにより、文化祭の限定公開ができるようになるなど、外部との交流は復活しつつある。鴻巣市の植栽ボランティアへの参加も堅調である。 (課題) 生徒の社会貢献意識は高く、外部機関とWIN・WINの関係づくりを学校全体で進めていくことが必要である。	オンラインの活用などを検討し、生徒の活躍の場をさらに広げ、自己肯定感や自己有用感を高める。	①外部との連携を深めるとともに、多くの生徒が地域交流に参画できるよう、丁寧に指導・支援する。(通年:生徒部、教科担当) ②各種の体験活動、外部連携事業等の充実を図る。(担当) ③学校説明会やHPの充実を図ることで、中学生とその保護者に本校への理解を促進する。(担当) ④一斉メール配信やHPの積極的な更新、学校通信の発行により、の情報発信を強化する。(通年)	①②地域交流等の実施状況と成果 ③体験活動、ボランティア参加等に関するアンケート調査結果による成果(前年度との比較) ④説明会参加中学生数 ⑤配信回数、記事数、発行回数など		

学 校 関 係 者 評 価		
実施日	令和	年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等		